

産業建設

畜産経営に係る運営形態などを調査

産業建設常任委員会（山崎幸男委員長）の町外調査は、11月12日と13日に行われ「畜産経営に係る運営形態」「エネルギーでまかなう地域完全循環型食料生産基地への取り組み状況」をテーマに岩手県葛巻町の葛巻町畜産開発公社へ、「地域産業の活性化策」をテーマに青森県八戸市の協同組合

八食センターを訪ねました。  
**◆葛巻町畜産開発公社**  
 葛巻町は、農林業が盛んで活気溢れる元気な町です。その中でも、特に畜産業（主に酪農）は町の基幹産業として確立されており、公社経営も順調に行われているとのこと。  
 公社の酪農部門は、年間40億円を超える生産額で安



畜産経営に係る運営形態などについて説明を受ける産業建設常任委員（葛巻町畜産開発公社）

定した経営が図られていますが、その要因として「人材がすばらしいことであり、いくら施設や環境が良くても、そこに携わる人がどれだけの情熱をもっているかで、その後の経営に大きくかかわる」という言葉が印象的でした。

クリーンエネルギーについては、各種補助事業などを導入して、風車2カ所15本、中学校には太陽光発電木質バイオマス発電、牛の排泄物から燃料電池製造に世界で初めて成功を収めるなど、まさしくクリーンエネルギー日本一の町だと感じました。

本町の基幹産業である農林水産業も高齢化が進み、後継者不足などの問題を抱えています。これからの取り組みとして一番重要なものは「若くてやる気のある人材の確保と育成」であり、そのことが町の産業を育てる重要な課題であると感じました。

**◆協同組合八食センター**  
 八食センターは、地域の皆さんから食の台所として愛されています。

今は知名度も上がり、多くの皆さんに来場しても



買った食材をその場で味わうことができる「好きかって広場七厘村」（八食センター内）

らっているが、開店した当初は「愛想が悪い、ほしい分だけの量で売っていない、朝3時の開店は早すぎる」などの苦情が寄せられたそうです。現在は、地域の声を大切に、良い物をより安く提供することを目標に掲げ、朝9時開店となつているとのことでした。

また、年間で300万人を超えるお客さんが来場するが、新たなお客さんを獲得するため、100円バスや200円以下バスを運行したり、若い組合員の人たちを中心にさまざまなイベントを企画、実施するなど

常に新しいものを取り入れているとのことでした。

これまでの事業については、行政からの支援を受けずに実施しているが、会員の負担増にならないよう施設を組合で建設して誘致企業に貸し出し、その賃貸料を運営費に当てるなど独自の運営方法を構築しているとのことでした。

ここまで成長してきたのは「まわりに頼らず自分たちで考えて行動してきたこと」が「力」となっているとのことであり、自らが創造し行動することが大切だと感じました。